

(別添4)

【知夫村】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

文部科学省が推進するGIGAスクール構想で整備した1人1台の端末と高速なネットワーク環境により、従来の画一的な授業から1人ひとりの児童生徒に最適化された「深い学び」の実現を目指していく。

知夫村では令和6年度「知夫村教育委員会の方針」の中で、学校教育において情報教育の情報活用能力やコミュニケーション能力の育成を図るため、ハード・ソフト両面からのICT環境の整備充実に努めることを重点施策としている。

また、本村では児童生徒が自分の学習成果を発表するために、1人1台端末を活用したオンライン学習やデジタルドリルを活用した学習などを通して問題解決能力や探究心を養い、自ら学ぶ子を育てることを実現することを目指すこととする。

2. GIGA第1期の総括

児童生徒全員へ1人1台端末を整備して以降、大型提示装置を導入するなど授業における環境整備が大きく進んだ。結果として、端末利用がより身近になり授業での活用や入学式等行事でのリモート活用が行われ、有効性を発揮した。

また、Google Workspace等を利用した校内での資料の共有や情報を共有する仕組みも一定程度定着しコロナ禍の経験を活かした実践が広がっている。

家庭学習の充実のために、スクリーンタイム等の設定を行い、1人1台端末の家庭への持ち帰りを推進してきた。

一方で、学校間や担当する教員によって利活用の差も出てきている。学習の基盤としての「情報活用能力の育成」には、1人1台端末を活用した実践が不可欠である。先進的な取り組みを行う学校での知見や外部講師によるミニ研修などの充実、校務や研修での利活用を十分に体験し、授業等で実践が広がっていくことが必要とされている。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 1人1台端末の積極的活用

授業等での端末等のICT機器を、教員が「教えるための道具」として活用することに加え、児童生徒が「学ぶための道具」としても積極的に活用していくことで、児童生徒の資質・能力の育成に資することができると思える。

ICT活用に係る研修を実施し、教職員がICTを活用することによるメリットを享受することができるように促す。また、教職員への効果的な活用についての情報共有を図る。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

従来の授業の良さを基盤としつつ、個別最適な学びと協働的な学びを実現することによって、児童生徒の資質・能力の育成を目指す。

児童生徒が「自分で調べる場面」「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」「児童生徒同士や教員とやりとりする場面」において、積極的に1人1台端末を活用できるような環境づくりを行う。さらに児童生徒の個性に応じた学びを進めるために、「複線的な学び」「自由進度学習」について、リーディングDX指定校等の先進的な取り組みについて紹介し、各学校において研究が深まるように努める。

教員がよい授業イメージをもつための研修に積極的に参加できる体制づくりや、校内研修の充実を目指す。

(3) 学びの保障

障害のある児童生徒や病気療養児等、特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じて端末を活用した支援を実施していく。

- ・今後も引き続き端末の整備・更新を随時行い、1人1台端末環境を維持していく。